

「コシヒカリ」と作期分散可能となる「ふくまる」の移植適期			
[要約] 「ふくまる」は5月中旬以前に移植することで安定した収量品質が得られ、「コシヒカリ」との品種構成において、5月以降に移植する「コシヒカリ」との収穫作業の分散が可能である。			
農業総合センター農業研究所	平成26年度	成果区分	技術情報

1. 背景・ねらい

本県における水稲作付の8割は「コシヒカリ」など中生品種であり、移植時期を分散しても収穫時期の作業が集中し、規模拡大が困難であった。そこで早生品種「ふくまる」を導入し、安定収量の確保および「コシヒカリ」との作期分散を図る。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 5月中に移植した「ふくまる」の収穫適期は出穂後40～44日であり、移植時期にかかわらず一定である。また、その時点の帯緑籾率は13.7～9.4%である。(図1)。
- 2) 5月中に移植した「ふくまる」は同時期に移植した「コシヒカリ」より早く収穫できるが、移植時期が遅れるほど成熟期の差が縮まる傾向がみられる(表)。「ふくまる」が先または同時期の移植では「コシヒカリ」との収穫時期の競合はない。
- 3) 5月10日移植の「ふくまる」は5月1日移植の「コシヒカリ」より早く収穫でき、5月20日移植では5月1日移植の「コシヒカリ」と同時期の収穫となる。すなわち「ふくまる」を5月中旬以前に移植することで5月中に移植した「コシヒカリ」より先に収穫でき、作期分散が可能である(図2)。
- 4) 5月中に移植した「ふくまる」の玄米収量は、「コシヒカリ」よりも移植時期による変動が少ない。また、いずれの移植期においても検査等級1等、千粒重23.5gが達成できる(表)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は農研水田圃場(表層腐植質多湿黒ボク土)における平成25年および26年の2カ年の結果である。栽培環境の異なる地域への適応性については更なる検討が必要である。
- 2) 整粒歩合が高く、屑米率が低く、検査等級が1等となる時期を収穫適期とした。
- 3) 本県では品質向上のため、「コシヒカリ」の5月5日以降の移植を推奨している。この場合、「ふくまる」は5月20日までの移植で作期分散が可能である。
- 4) 平成24年度主要成果水稲新品種「ふくまる」の高品質安定多収栽培法における生産目標は実収量600kg/10a以上、千粒重23.5g以上、検査等級1等である。
- 5) 農業研究所生育情報によると、5月10日移植「コシヒカリ」の茎数および穂数は平成25年度では平年に比べ少なく、平成26年度では平年並みの傾向であった。

4. 具体的データ

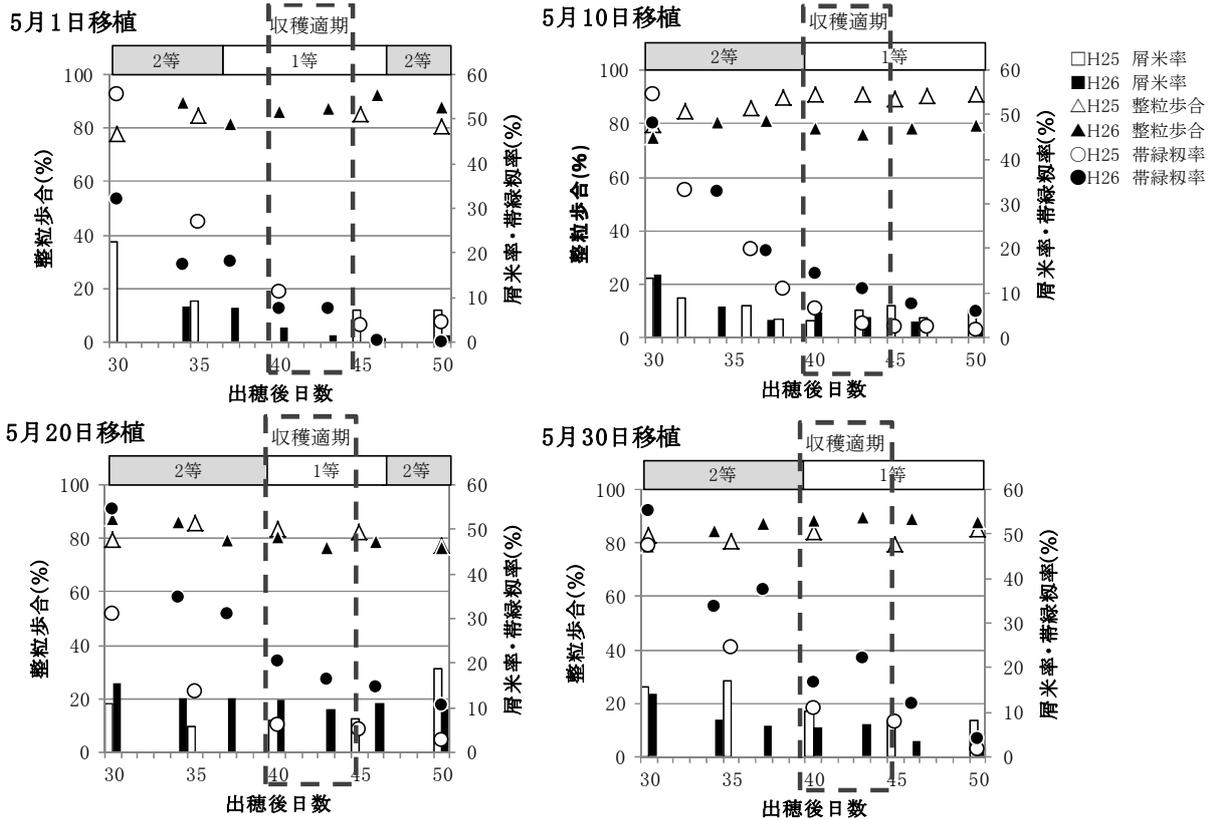


図1 「ふくまる」の移植期別の整粒歩合、屑米率、および農産物検査等級の推移

出穂後日数毎に中庸な2株を収穫し、調査した。整粒歩合はS社穀粒判別器RQGI10BIにて測定した値
屑米率は1.85mm篩目で分別した数値。
農産物検査等級はH26産を示す。全農茨城県本部米穀総合課での格付(白未熟粒は排除)

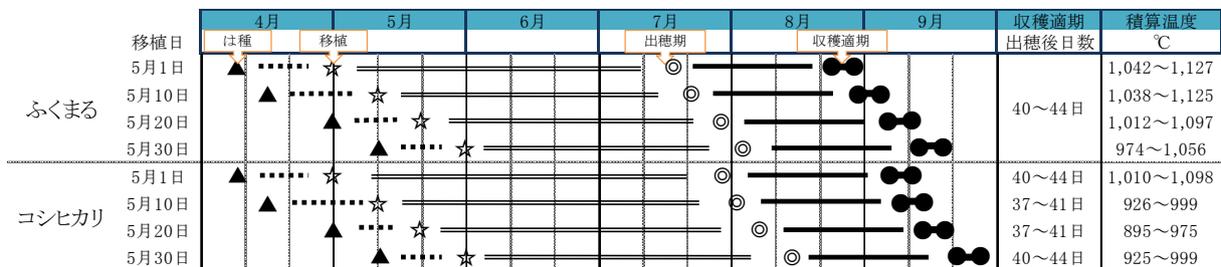


図2 「ふくまる」および「コシヒカリ」の移植時期と収穫適期の関係

表 「ふくまる」および「コシヒカリ」の移植期別生育、収量および品質

品種	移植期 (月・日)	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/nf)	精玄米重 (kg/a)	収量比 (%)	一穂 粒数	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	倒伏程度 (0~5)	玄米タンパク 質含量(%)	検査 等級
ふくまる	5.01	7.17	8.26	89.3	19.3	500	79.4	100	72	24.0	91.4	2.8	6.9	1
	5.10	7.21	9.01	83.6	20.2	427	80.3	101	77	25.5	93.4	0.5	6.5	1
	5.20	7.28	9.08	85.0	19.5	479	79.8	100	76	25.3	89.2	0.7	6.4	1
	5.30	8.04	9.16	86.9	19.9	426	77.5	98	76	25.5	88.3	2.0	6.5	1
コシヒカリ	5.01	7.28	9.05	94.4	19.0	476	75.8	100	81	21.8	88.3	3.5	6.7	1
	5.10	8.02	9.13	87.6	19.9	365	65.8	87	86	23.2	87.3	2.2	6.1	1
	5.20	8.06	9.15	93.2	19.7	408	70.3	93	84	22.9	89.6	2.0	6.3	1
	5.30	8.10	9.24	97.9	20.0	400	63.3	83	89	22.6	79.6	3.4	6.5	1~2

平成25~26年の平均値。5月1日移植は「ふくまる」生育診断ほ場での結果、5月10日、20日、30日移植は同一ほ場での結果。収量比は5月1日移植区に対する比。

成熟期は帯緑率10%以下となった日とした。倒伏程度は0(無)~5(甚)の6段階評価。検査等級は全農茨城県本部米穀総合課による格付。

玄米タンパク質含量はS社食味計RCTA11Aにて測定した水分15%換算値。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- 水稲新品種「ふくまる」・「一番星」の高品質安定栽培技術の開発・平成24~25年度
- 「ふくまる」ブランド化のための高品質多収栽培技術の開発・平成26~27年度
- ・作物研究室